

## I. 総論

### ＜ファイナリストチームへのメッセージ＞

今回の最終公開審査案件では、市民／学生チームの地域課題解決の取組に対するコミットが高い評価につながりました。これら13案件の今後の課題は総じて、（１）アイデアの実現に向けての資金と人を含む体制的基礎の充実、学生主体チームについては実現に向けての持続可能な体制の構築が求められること、（２）COGでは社会的活動のアイデアを重要視しているが、アイデアの実現段階ではデジタル時代を踏まえて社会的活動のアイデアを支えるデータ活用アプリの有効な利用も資金的体制的なリソースの範囲で検討してみること、（３）アイデアの実現フェーズに移行するには（１）の体制問題に加えて、①デザイン思考によるアイデアの再検証、②実現可能性調査、③アプリに利用可能なデータの収集、などに気を配って着実に進めて欲しいと思います。

これから一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスをご報告いただけることを心待ちにしております。「チャレンジ！！オープンガバナンス2017フェーズ2」として、実施に向けてのチャレンジです。アイデアが実り、地域の課題解決に貢献していかれることを願っております。

NPOなどユニークな人材と市内の文化施設等のピンポイント活用！ アプリを活用した人材&施設登録型一時預かり学童保育事業

（応募チーム：OPEN KANAZAWA Ver.1

（特徴）

夏休みなど子供の長期休暇期間に限定して母親などが働いている時間（平日8：30～15：30）を預かってくれる施設・人材の掘り起こしとアプリによるニーズのマッチングを特徴とする。



複数のNPOや地域団体、企業、公共施設を連携することで、負担を分散した、『無理をしないサポート』を実現する

(アドバイス)

(1) 試行的な実施

この課題は市役所への実際の苦情がもとになって出てきたものですが、実際に手掛けようとしている提案者たちの思いとの調整が必要であるところがあります。まずは今年度の夏休みに一、二か所で試行的に行って、実際のニーズにかかわるデータの収集をしながら、集団としての子供の長期休暇期間の過ごし方を含めて、子供の自立的な成長の視点も加味しつつ、アイデアを練っていくことが望まれます。

(2) 市役所との連携の模索

従来金沢市では、市民協働推進課が窓口となって市民によるチャレンジ事業を応援する仕組みがあり、この仕組みを活用することによる市役所との連携も模索していただくと、市民と行政の連携のあり方として効果があると思われます。

(3) いくつかの団体間の連携の模索

金沢市の地域にはいくつかの NPO があり、それぞれの活動の特徴を生かしつつ、将来的に横で連携していく仕組みが考えられえないか、(1) の試行的な実施と並行してできるところから組んでいかれるのも

(4) 現場とデータの連携の模索

COG の特徴はデータを見て行くところがありますが、OPEN KANAZAWA Ver.1 は現場とデータを両方継ぎ合わせていこうという意識をそなえていて、この意味からも今後の現場とデータの連携のあり方を期待しています。具体的な課題に沿って使いやすいアプリを含めて実際の連携の有効な在り方を探っていくと欲しいと思います。